

標 題	<p style="text-align: center;">多収穫米「ほしじるし・つきあかり」栽培研修会を開催！！</p> <p style="text-align: center;">～需要に応じた米生産と生産コスト低減のために～</p>
-----	--

(ダイジェスト)

1月29日(水) 農業技術センターにて、島根県と島根県農業協同組合(以下「JAしまね」)が共催し、農業普及員等28名、営農指導員等21名の参加で、指導者研修会を開催しました。

当日は、「新潟県における多収性品種の取り組みと“つきあかり”栽培について」と題し、新潟県の担当者から講演を頂くなど、多収穫米の生産振興に向けた意識統一を図りました。

島根県では関係機関と連携して、需要に応じた主食用米として多収穫米(業務用米)の生産拡大に取り組んでおり、昨年度は「きぬむすめ熟期」の5品種について調査し、本県適応性では「ほしじるし」が高いことを確認しました。

そこで令和元年産では、「ほしじるし」の本県適応性を引き続き確認することに合わせて、中山間地域でも安心して栽培できる多収穫品種として、新たに「つきあかり(ハナエチゼン熟期)」に着目し、県内全域で多収穫品種に等しく取り組むことが出来る土台づくりに取り組みました。

今回の研修では、多収穫米生産地の新潟県の担当者より、「新潟県における多収性品種の取り組みと“つきあかり”栽培について」と題して、県としての取り組み状況および栽培上の留意点について講演を頂くとともに、全国農業協同組合連合会の担当者より多収穫米の全国情勢と「ほしじるし」栽培の留意点について見識を深めました。

多収穫米生産にあっては、①多肥栽培、②登熟後期までの適切な水管理、③適期収穫などの基本技術の励行に加えて、④千粒重が大きいため播種量を1割程度多くする、⑤穂重型の品種では早刈りによる品質低下が著しいことなど、単収向上のヒントとなる助言を得ることが出来ました。

また、この研修会に合わせて、農業技術センター作物科からは本県で多収穫を実現するための提案、JAしまね及び島根県の多収穫米実証ほの成績報告も行われ、「つきあかり」は本県適応性があり有望であること。また、JAしまね米穀課、県農産園芸課より、令和2年産多収穫米の取り組みについて方向性が示され、関係機関一体となって取り組む必要性が再確認されました。

技術普及部としては、引き続き多収穫米の単収向上を進めることで、「需要に対応した米づくり」「低コスト生産」をすすめることで「持続可能な米づくりへの転換」に向けて関係機関一丸となって取り組みを行います。

